

平成28年度 南アルプス市立若草小学校 第1回自己評価書

若草小学校

校長 沢登 一浩

本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

1 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
 - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

2 全体評価

I 学校生活について

【考察】

1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、児童・保護者ともに高い。学校生活が楽しくないと答えた児童の中には、勉強がわからないためと答えた児童もいて、学習との関わりが強いことが考えられる。またクラス替えに関わって新しい人間関係がうまく作れないでいる児童もいる。学校が楽しいと思えるような学校づくりのためにも、個人対応をしっかり行い、楽しくない原因（理由）を明らかにし、その原因（理由）を取り除くための手立てを講じていく必要がある。

2の項目「みんなで力を合わせがんばっている」について

「みんなで力を合わせがんばっている」と感じている児童の割合は高い。その中で、5年生児童においては、「あまりそうは思わない」の割合が多くなっている。他人のよいところを認め合い、団結したり、協力したりすることを学ぶ場面を学校生活の中で意識的に設定していくとともに、協力している場面ではよく誉め、協力していない場面では、指導を施していきたい。2学期以降の児童の様子については注視していく必要がある。また、保護者においては、「仲の良い友達がいない」と答えた割合が0%または、それに近い数字であり、良好な状態であると言える。

3の項目「困った時に誰かに相談できる」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせず、相談できる人がいることはとても大切である。児童において肯定的な回答は8割を超えているが、学年によっては、1割を超える児童がうまく相談できないでいる。保護者においてもほぼ同様の傾向が見て取れる。2学期以降、より一層、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

4の項目「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。これからも校内美化や環境整備に努め愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

【改善策】

- ◆児童の様子を観察し、個別対応をしていく。困ったときは、いつでも心配なことや相談を児童が話せるように、親身に聞いて対応していく教師の姿勢を随時伝えていく。(1年)
- ◆楽しくない理由を探るなど個人的に対応する。IIの学習指導ともかかわって、わかる楽しさを経験させたい。(2年)
- ◆自分の思いや悩みを伝えることができない児童もいるので、小さな心の揺らぎを見逃さないように努める。(日記や、日常の会話など)(3年)
- ◆児童の様子をよく観察し、個別対応をしていく。(4年)

- ◆クラス替えで新しい人間関係を築いたり、相手とどう折り合いをつけていくか理解したりするのに時間がかかっている。学校生活の様々な場面で団結したり協力したりする場面を意識的に設定していきたい。(5年)
- ◆係や掃除といった地味だが必要不可欠な仕事に真面目に取り組めるよう、改めてクラスの一員としての自覚を持たせる指導を続ける。(5年)
- ◆運動会、学芸発表会などの学校行事を通して、みんなのことを考えさせ、協力することの大切さを養っていきたい。(6年)

II 学習指導について

【考察】

1の項目「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことの一つである。児童は肯定的な回答が90%以上の学年が多く(2年生85.9%)、概ね満足できる結果である。保護者の回答も肯定的な意見が多い(全校保護者97.3%)。今後とも「わかる授業」に向けて授業改善に努力していきたい。また、否定的な回答をした約10%近くの児童がいることを念頭に、より一層、教材等に工夫を加え、基礎・基本を大切にしたいわかる授業を展開していきたい。

2の項目「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

校内研究会等を通し全職員で研究を進めてきた、「話を聞く態度の育成」は、児童の肯定的な回答が多く、成果が表れてきている。保護者においても「授業に集中させるための指導に努めている」は94.8%の高い評価となっている。しかし、実際には課題を抱えている児童もおり、今後も、話を聞く態度について、校内研究会ともかかわりを持ちながら、しっかり身に付けさせていきたい。

3の項目「授業中の発言」について

発言をすることに対しては、聴くことに比べると肯定的な評価が低くなっている。特に高学年での「そう思う」の割合が低学年に比べて低い。6年生では、40%近くの児童が否定的な回答をしている。若干ではあるが、改善傾向が見受けられる。校内研究としての研究の成果や日頃の取組の中において、自分の考えを伝え合う学習を意図的に仕組むなどして、更なる改善を図ってきたい。

4の項目「宿題や自主学習」について

児童の自己評価では、5年生においては肯定的評価が70.7%となっているが、その他の学年では、90%に迫る児童が自主的に取り組んでいると回答している。各学期に行われる家庭学習強化週間の取組の他、日頃からの取組が児童の意識を変えてきていることにつながっている。保護者においても、全校保護者の集計では84.7%の保護者がしっかり取り組んでいると肯定的にとらえている。高学年になるとやや評価が下がる傾向にはあるが、それでも、5年生の保護者においても8割近くの保護者が肯定的にとらえている。宿題を中心にしっかり家庭学習を行うことが、基礎・基本の定着につながることを今後も児童や保護者に伝え、理解と協力を求めつつ主体的に取り組ませていきたい。

【改善策】

- ◆学習の理解が不十分な子どもがいるので、全ての児童に基礎・基本の学習力がつくように授業改善をしたり、保護者の協力を得ながら家庭学習を取り入れたりして、学習内容の定着を図る。(1年)
- ◆わからないと言えるクラスづくりに努める。個別に対応する。できる範囲でT Tをお願いしていく。(2年)
- ◆声掛けを行い、常に意識させていく。やはり聞くことがすべての基本になる。(2年)
- ◆話をしっかり聞くようになるためには、直接の対応にはならないかもしれないが、学習が解るようになることが大切。(2年)
- ◆今後も個々を大切にす指導を心がける。1年時と比べ、漢字も学習内容も難しくなった。二学期の九九の学習も踏まえ、保護者の協力も得ながら家庭学習を取り入れ、内容の定着を図る。(2年)
- ◆中学年になり、自分の考えを伝えたり、発表したりすることに対し、躊躇する傾向が少しずつ出てきている。授業では、一人一人の考えを大切にし、お互いの意見を尊重し合えるような学級文化を創っていく。(3年)
- ◆正答を出すだけでなく、いろいろな考えを練り合う授業を心がける。(3年)
- ◆毎年、家庭学習強化週間を継続して行っている成果はでていていると思う。今後も、家庭学習の習慣が更に定着するように、取り組み方法や、意義について保護者に伝えていく。また、【若小スタンダード】のように、学年ごとの取り組み方法などを、明示することも良い。(3年)
- ◆発言できる機会を授業の中に設定していく。またペアやグループ学習なども取り入れていく。(4年)
- ◆家庭学習については、家庭により差が大きいので、家庭学習が習慣化されるようできるだけ呼びかけていく。(4年)
- ◆全員発言の機会を設けたり、勇気を出して発言して良かったと思える学級の雰囲気づくりを心がけたりしていきたい。(5年)
- ◆家庭学習に対する意識を高める。(5年)
- ◆発言しやすいクラスの雰囲気づくりに努める。(6年)
- ◆自主学習の大切さを引き続き話していく。(6年)
- ◆家庭学習の大切さをお便りなどを通して家庭にも伝え、協力してもらおう。(6年)

Ⅲ 生徒指導について

【考察】

1の項目「きまりや約束を守る」について

児童の生活の中心は学校生活であり、学校の約束や決まりを守り生活できることはとても重要である。児童の90%以上が肯定的な回答をしており、96%の保護者がルールやマナーを育てよう意識している。よい傾向が続いている。一方、数%の否定的な回答をした児童も存在している。一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、指導にあたりたい。

2の項目「いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言う」について

いじめや非行行動に対し、先生や友だちに言えると多くの学年で肯定的な回答の割合は高い。しか

し、高学年でその割合が低くなっている。いじめや非行行動の未然防止や早期発見・早期対応は重大事案に対処する基本であることから、いじめや悪いことをしている人を見たら早期に先生や友だちに伝えることに重点を置いて指導していきたい。

3の項目「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」について

いじめのない学級づくりは、最も大切にしたい学級経営の一つである。保護者の回答では、5・6年生で否定的な回答が高い。高学年になるにつれて、人間関係がより複雑化し、表に見えない部分での人間関係の悪化やいじめが起こっていることがあり得る。関心事が一段と高いことの表れであり、より強力な取り組みが求められていることの表れととることができる。Q-U やアンケートなどを活用するとともに、些細な事象の変化にも目を光らせ、いじめのない学級づくりを目指し、学級経営にあたりたい。

4の項目「あいさつ」について

児童会やPTAの協力も得て、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。児童のあいさつに対する意識の割合は高い。学校の中のみならず、家庭や地域の中で元気よくあいさつができるよう今後もあいさつ運動の取り組みを充実させていきたい。

【改善策】

- ◆善悪の判断や規範意識がしっかりと身についていくように、児童一人ひとりに目を向け、学年として歩調を合わせ指導していく。(1年)
- ◆決まりや約束を安易にとらえているための回答か、自分に厳しいための回答か、個人的に見極め指導していく。(2年)
- ◆知らせることは悪いことではなく、大切な事だと意味づけていく。また、言いやすい雰囲気づくりに努める。高学年には直接注意できないという実態は、受容していく。直接言えなくても、先生たちに話せるようにする。(2年)
- ◆学校以外の場でも大人が見本になって挨拶ができるよう呼びかけていく。(2年)
- ◆今後も、連絡を密に取り合い、同じ歩調で生徒指導を行っていくと良い。(3年)
- ◆児童会でも「あいさつ運動」に取り組んでいるが、学校以外の場所でも気持ちのよい挨拶ができるように指導、声掛けをしていく。(3年)
- ◆悪いと思うことは注意しようという態度を育てていきたい。(4年)
- ◆今後も継続してあいさつ運動に取り組む。(4年)
- ◆善悪の判断ができ、はっきり意思表示ができる子を増やす努力をする。何が正しくて何が誤りか、その都度きちんと考えさせる機会を作る。(5年)
- ◆悪いことは悪いと言えるようなクラスの雰囲気づくりに努める。(6年)
- ◆挨拶することの大切さを再確認させ、挨拶運動の期間だけでなく、普段からしっかり挨拶するよう指導する。(6年)

IV 学校経営について

【考察】

1の項目「学校行事」について

「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されている」の項目について、肯定的な回答が95%以上であった。児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考える。運動会や学芸発表会など、学年の実態に合わせ趣向を凝らした内容となっている。今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。

【改善策】

◆今後も学校・家庭で協力しながら、開かれた学校を進め、目指す子どもの育成を進めていく。

V 研究について

【考察】

1の項目「校内研究会」について

昨年度までの研究の成果を引き継ぎ、若草小教育を実践し発展させてきている。100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。しかし、「Ⅱ 学習について」の項目の中で、授業が分からないと回答した約1割の児童、聞く態度や発言することに否定的な回答をしている児童へのきめ細かな指導が求められている。また、基礎・基本の定着のためにも家庭学習の大切さは、職員の一致した認識となっている。なお一層の啓発に努め、理解と協力を求めていきたい。本校の研究テーマである「学び合い」を中心に据えた、主体的で対話的な学習を通して、深い学びへとつながるよう、今後もさらに研究を重ね、個々の授業改善を図り児童の学力向上に努めていきたい。

2の項目「特別支援教育」について

本校は特別支援クラスが3クラスあり、また普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。特別支援教育に対する校内支援体制については、100%の肯定的な回答があった。しかし、その内訳は、「ほぼそう思う」の回答の割合が高く、十分満足できる状況にないことが伺える。その理由としては、きめの細かな対応等について、現状の中で、精一杯のシフトを組んで取り組んではいるが、支援を必要としている児童のすべてに十分に配慮が行き届いている現状にはないと感じ取ってのことといえるだろう。一言では人手不足ともいえる現状だが、学期に数回行われる特別支援校内委員会や夏季休業中の特別支援研修会等を通し、児童の情報交換を密に行い全職員が共通理解した上で支援を行い、さらにきめ細かく、「今後も、一人ひとりを大切に、ともに学び合う学校づくりに努めていきたい。

【改善点】

- ◆全職員の共通理解のもとで、学校として同一歩調で取り組み、研究を深めていく。(1年)
- ◆今後も、「見せるための授業」ではなく。授業の提案者も、参観者も、日々の実践に結びつけることができるような研究を望む。(3年)

VI 施設・設備・安全管理について

【考察】

1の項目「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは高い評価を得ている。安全点検、訓練、設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止について努力していることが評価されている。

2の項目「安全確保や事故防止」について

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また、保護者と連携し通学路の安全点検や登校指導を行ってきた。今後も、保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進していきたい。

【改善策】

- ◆学校内での環境美化や安全点検、および児童の安全確保と事故防止について努めていく。(1年)

VII 保護者・地域住民との連携について

【考察】

1の項目「情報発信」について

各種お便りや授業参観や学校行事の計画など、肯定的な回答が95%を超えている。保護者からの相談や要望に適切に対応しているについても高い評価を得ているが、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、今後もさらに協力して良い連携をとっていけたらよい。

2の項目「授業参観 学校行事」について

本校では、月に1度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事の持ち方についてはとても良い評価を得ており、今後も保護者や地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。

3の項目「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

肯定的な回答が95%を超えており、職員一人ひとり努力している様子がうかがえる。「そう思う」の割合がやや低い傾向にあり、数%否定的な回答もみられる。これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていきたい。

【改善点】

- ◆年間行事予定の確認の際に、同じ月に行事の重複がないようにしていく。(1年)
- ◆学年便りに、児童の様子をできるだけ載せて学校の様子を伝えていく。(2年)

- ◆行事は組み合わせ、間隔を置くなどして負担がかからないようにしていく。(2年)
- ◆保護者との連絡を密にし、改善に努める。(6年)

Ⅲ まとめ

「Ⅱ 全体評価」で説明したように、アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、1学期の段階で課題となっていることがある。

それらをまとめると、次のようなことになる。

【学校生活について】

○学校が楽しいと思わない否定的な回答をした児童にしっかりと目を向け、児童一人ひとりをしっかりと見守っていききたい。

【学習について】

○授業中に発言や質問、意見を言うことをさらに増やしていきたい。自分の意見を発表して友だちと学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気のある学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。家庭学習推進期間の設定回数を増やしたり、家庭学習の内容や方法を工夫したりして、家庭学習を充実させていきたい。保護者の理解と協力ももめたい。

【生徒指導について】

○いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について、いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言えることが最も大切なことである。児童の日常の様子にこれまで以上に目を配り、子どもたち同士の人間関係の変化にいち早く気付かなければならない。また、学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたりたい。

○あいさつ運動については、児童会・PTA・地域の方々とも協力し合いながら、今後も取り組んでいきたい。

以上のような課題から、特に今年度取り組む重点項目を次のようにまとめた。

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・児童会活動の取り組みを活かし、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、個別の支援や助言を行っていく。

○OPTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、今まで以上にあいさつ運動の取り組みを進めていく。
- ・校内のあいさつ運動と連携し、保護者や地域にもあいさつ運動のお願いをしていく。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・校内研究と連動した取り組みの中で、「学び合い」の場面における、主体的な学び、対話的な学びが行われるような授業を意図的に仕組んでいく。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、子どもたちの習慣化につなげる。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を工夫し、基礎・基本の定着や、家庭教育の時間の確保を行っていく。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・いじめ撲滅宣言などの取り組みを、児童会が中心となり全校で進めていく。
- ・いじめのない学級づくりの取り組みを、お便りや部会の中で保護者に伝えていく。